

142機関、広域災害に備え

県内 住民ら簡易担架作り

徳島県や県内自治

体、自衛隊、警察、災害協定の締結団体など142機関の約千人が参加する県総合防災訓練が1日、海陽町浅川のまぜのおか一带を主会場に行われた。熊本地震や東日本大震災を踏まえ、広域災害への備えをテーマに各種訓練に取り組んだ。

南海トラフを震源とするマグニチュード9の地震に、山腹崩落や津波が重なった「複合災害」が発生し、家屋倒壊や道路網寸断が相次いだとの想定。海陽町のほか、美馬、阿南、徳島の3市と美波町にも訓練会場を設け

た。

まぜのおかでは、県警広域緊急援助隊が車両に閉じ込められた被災者を救出する訓練を実施。隊員同士が声を掛け合いながら窓ガラスを専用器具で素早く取り壊し、被災者役の人形を担架に乗せて搬出した。ロープワークや簡易担架作りなど防

災体験コーナーには、近隣の海南病院であった災害医療訓練には医師や看護師、県と協定を結ぶ国際医療援助団体・A.M.D.A.（岡山市）のメンバーら約50人が参加。治療の優先順位を決める「トリア

ージ」や負傷者搬送の手順を確かめた。

東日本大震災で課題となった燃料不足の対策としては、自衛隊へリコプターへの燃料補

給訓練が美馬市美馬町の西部健康防災公園建設予定地であった。海上の自衛隊輸送訓練は

隊員15人が高松港から徳島海上保安部の巡視



総合防災訓練で、車両に閉じ込められた被災者を救出する県警広域緊急援助隊の隊員＝海陽町浅川のまぜのおか

船で徳島市のマリニピア沖洲まで移動した。美波町日和佐浦の日和佐城周辺では、津波情報の収集に小型無人機ドローンを活用。徳島ドローン協会の会員ら10人がドローン搭載の小型カメラで大浜海岸を撮影し、まぜのおかにリアルタイムの映像を流した。

まぜのおかで避難所運営訓練に取り組んだ海陽町穴喰浦の団体職員山上和哉さん(30)は「訓練は継続が大切。災害時にどのように動けばいいのか、日頃から意識したい」と話した。

(まとめ・矢田諭史)